秋田県農林水産技術センター水産振興センター広報誌

群くき来

第 63 号

平成19年３月30日発行

秋田県青年・女性漁業者交流大会開催

今回で通算45回目となる「秋田県青年・女性漁業者交流大会」が、平成19年１月16日、秋田市の県生涯学習センターで、約120人を超える漁業関係者が集まり盛大に開催されました。大会では、研究活動発表、視察研修報告、特別報告、漁業士会活動報告などが行われ、研究活動発表では、象潟根付組合の活動が最優秀賞に輝き、３月に開催された全国大会に出場しました。全国大会では、その活動が高く評価され、ＪＦ全国女性連・ＪＦ全青連会長賞を受賞しました。

象潟根付組合　ＪＦ全国女性連・ＪＦ全青連会長賞を受賞！
（全国青年・女性漁業者交流大会　３月８日　虎ノ門パストラルにて）

秋田県青年・女性漁業者交流大会概要

【研究活動発表】

でっけぇーアワビはモグの中 増えろヘラモグ

象潟根付組合　佐藤　賢

アワビの漁獲量減少原因を、餌の海藻の減少と考え、藻場の復活に向けた活動を展開。

目指せ！秋田名物「八森岩ガキ」

八森地区カキ漁業協議会　木村鉄雄

「八森ハタハタ」に続く名物「八森岩ガキ」を目指し、ブランド化と販路拡大の活動を展開。

【視察研修報告】

魚の直売方法について

県漁協北部総括支所ひより会　佐々木孝子

定置網漁業者が取り組んでいる朝市等での直売について情報収集を実施。

沖合底びき網漁業の大型クラゲ対策について

北部底びき網船長会　山本太志

大型クラゲ対策漁具について情報収集を実施。

加工販売等に関する視察研修について

県漁協女性部南部総括象潟支部　後藤洋子

加工販売等に関する情報収集・意見交換を実施。

【特別報告等】

未利用資源の利用方法について　第Ｖ報

男鹿海洋高校　蓬田美沙絵・石川明子
古谷　悠・大越希望

ハタハタを使用した揚げかまぼこの製造研究報告。

秋田県漁業士会活動報告

秋田県漁業士会　須藤征得・菊地良輝

平成18年漁業士会活動概要及び直売会の報告。

【漁業士認定証授与式】

認定者　青年漁業士　菊地　博之（北部総括支所）
〃　佐藤　正勝（南部総括支所）
指導漁業士　鎌田　誠喜（北浦総括畠支所）
〃　佐藤真智夫（南部総括支所）
〃　加藤　廣茂（北浦総括畠支所）

事業成果紹介　**内水面利用部**

平成18年のアユの状況

釣りの対象種として、また、おいしい旬の食材として大変人気のあるアユは、県内でも最も重要な河川資源と位置づけられています。アユの寿命は１年で、前年の秋に川で生まれ、冬の間海で成長した後、春に川にのぼって来ますが、その遡上量は年によって大きく変わります。センターでは、その年の釣れ具合に大きく影響する、天然アユの遡上量を予測するために様々なデータを集めることを主な目的として調査を実施しており、その結果の一部について紹介します。

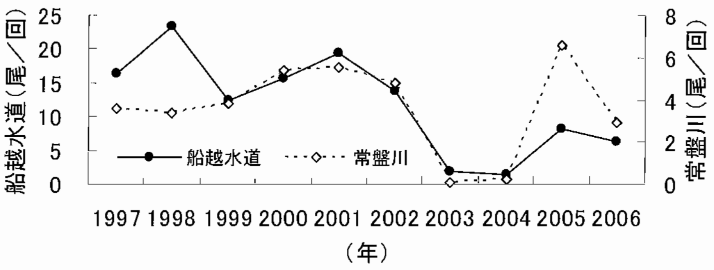
【種苗放流実績】

河川水温の上昇が遅かったため、多くの河川で例年よりも１～２旬遅めとなりましたが、全県では昨年より若干少ない約9.2トンのアユ種苗が放流されました。

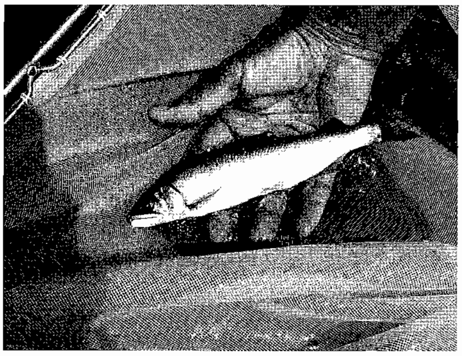
【天然稚アユの遡上状況】

４月から６月の初めにかけて船越水道と常盤川で調べた結果、出現開始時期は平年並みかやや遅め、大きさは平年並みからやや大きめでした。調査期間を通じた一網当たりの採捕尾数は、どちらも近年としては少ない方でしたが、常盤川の５月下旬の一網当たり採捕尾数は、近年では最も多い尾数でした。

阿仁川の根小屋頭首工の魚道を通過するアユを数えた結果は、６月23日午後から通過が確認され、26日をピークとして、６月30日までにおよそ８万５千尾が通過したと推定されました。この尾数は、平成17年と比べると３倍以上ですが、近年では遡上量の多かった平成12年や14年に比べると少ない値でした。



遡上稚アユ採捕調査における一網当たり採捕尾数



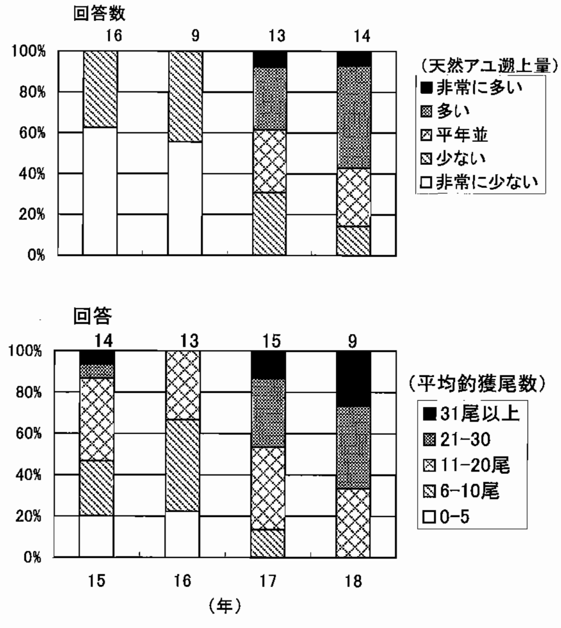
阿仁川を遡上するアユ

【アンケート調査】

河川漁協へのアンケートの集計結果によると、天然稚アユの遡上量については、半数以上が「多い」または「非常に多い」との回答でした。１人１日当たりの平均釣獲尾数は、すべての回答が11尾以上で、21尾以上という回答も７割近くを占めたことから、過去３年に比べて最も多く釣られていたと推察されます。

【ま　と　め】

平成18年のアユの状況を振り返ると、天然アユの遡上量は比較的多く、河川では数も多く釣れて、全般的に良いシーズンであったと言えそうです。なお、一部の河川では、冷水病の発生や、カワウの飛来が見られたという情報がありました。これらは、地域によっては大変大きな問題になっていることですので、関連する情報や新たな確認事例等がありましたら、水産振興センターまで御連絡をお願いします。

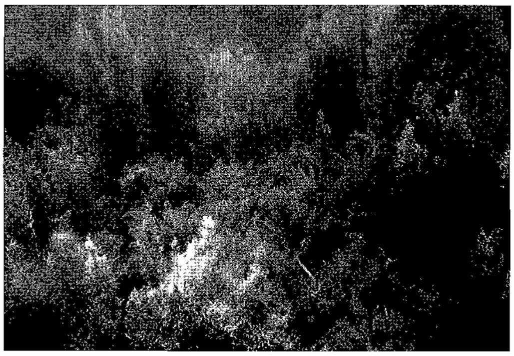


アンケート集計結果

事業成果紹介　**資源増殖部**

資源増殖部では放流用種苗の生産だけでなく各種魚介類の資源増大を目指した増養殖技術の開発に努めています。今年度の試験研究成果の一端を紹介しますが、より多くの成果を上げるためには漁業者の皆さんからの情報提供や調査への協力などが不可欠ですので、今後もよろしくお願いします。

【海の森健全化技術の確立研究】

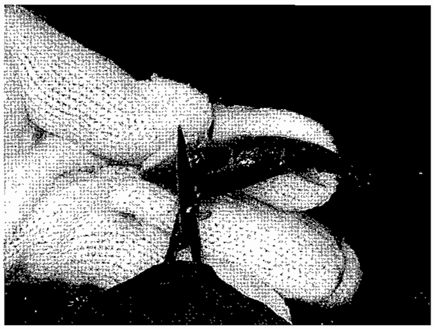


海の森とも呼ばれる藻場はハタハタをはじめ多くの魚介類の産卵場や生活の場としての機能を持ちます。このため、沿岸漁業生産の基盤、水質浄化や二酸化炭素吸収など環境保全の観点からも、その保護や造成は極めて重要な課題です。これまでスポアバッグ（胞子供給）法やウニ食害排除技術の実証試験を行い、一部の成果は現場普及することができました。今後とも、技術の改良と一層の普及を図っていきます。

【イワガキ】

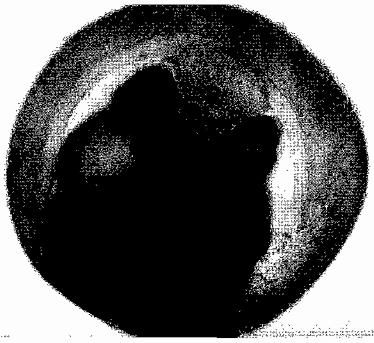
夏場の重要な資源として、全国屈指の生産量を誇るイワガキですが、近年、資源は減少傾向にあります。このため、資源維持・増大を目的に岩面の清掃や小型ブロックの投入、食害生物の効率的な駆除方法の検討などを行っています。

【トラフグ】



水産振興センターでは、平成7年からトラフグの種苗生産・放流を実施しています。本年度は平均全長32～36㎜の稚魚を58.6千尾生産し、中間育成を行った後、平均全長84～99㎜サイズの稚魚24.5千尾の左胸鰭を切除し、男鹿市鵜ノ崎地先及び秋田マリーナ地先に放流しました。早いものでは今年の秋から漁獲されますので、胸鰭のないトラフグを漁獲した場合は、連絡等調査にご協力をお願いします。

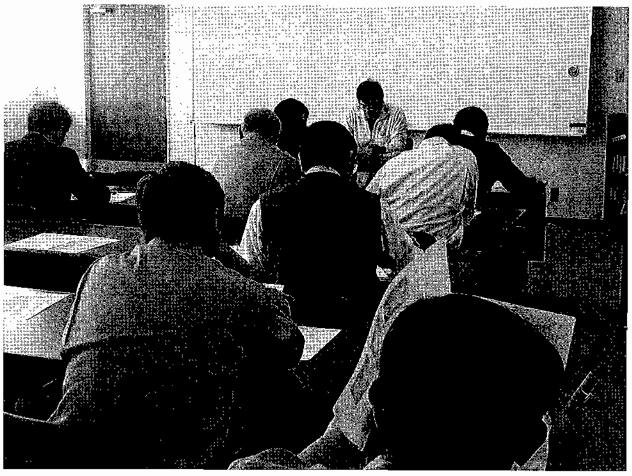
【ハタハタ】



水産振興センターでは、ハタハタ資源の維持増大を図るため種苗生産・放流技術開発を行っています。これまでの技術開発で大量生産が可能になりましたが、現在、その効果をより高めるために、活力のある大型種苗の生産と放流に取り組んでいます。放流する稚魚には頭部にある耳石をＡＬＣ（アリザリンコンプレクソン）染色することで標識をつけています。放流したハタハタの再捕結果から、放流魚の移動経路や放流の効果を推定します。

トピック　研究成果検討会を開催しました。

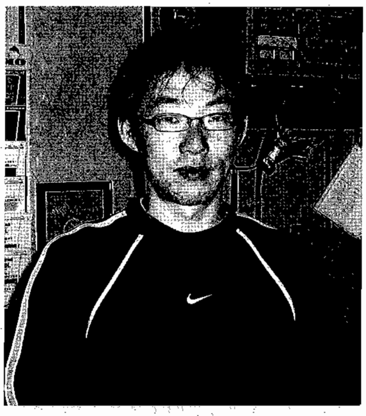
水産振興センターでは年度末に研究成果検討会を開催し、調査結果や問題点並びに来年度に設定すべき課題等を所内で検討することにしています。18年度は、この検討会を3月12日から３日間にわたって開催し、２班３部（企画管理班、普及班、海洋資源部、資源増殖部、内水面利用部）の計45課題について検討しました。この課題名については水産振興センターのホームページ（http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=genlist&GenreID=1146203150710）に掲載するとともに、来年度には事業報告書として取りまとめ、関係機関に配布する予定です。



新人漁師紹介　若い力が加わります。大きく育ててください。

山本　太志さん　（八峰町　30歳）

船名：第一但馬丸（沖合底びき網）
出身：八峰町
趣味：スポーツ（バスケット）
抱負：大学を卒業後、５年間能代市内小、中学校の講師を経て、２年前から父親の後継者として修行中です。子供の頃から海が好きだったので、もっと早く漁師になればよかったと思っています。早く１人前の漁師になるため、海技士免許取得に向けて勉強中です。皆さん御指導のほどよろしくお願いします。ただいま嫁さん募集中です。



浅倉　智さん　（にかほ市象潟町・23歳）

船名：第八龍神丸（底びき船）
出身：にかほ市象潟町
趣味：仕事!?
抱負：小さい頃から魚と戯れることが好きで、小学３年生の文集に「漁師になるぞ！」と書いた夢が捨てきれず、４年間勤めた地元水産会社を辞め漁師になりました。毎日、大漁（？）の魚と会えて幸せいっぱいです。まだ漁師になって約１年半です。早く一人前になるようがんばりますので、皆さんこれからもご指導お願いします。

編集後記　２歳になって間もない娘に、秋田県産のハタハタを食べさせてみた。うまかったのだろう、身だけにしたとはいえ、まるまる１匹分を平らげたあげく、全然足りないとばかりに皿をずぃっと差し出してのたまった。「おしゃかな！（お魚）」　（担当：企画管理班）